

受領No. 1645

日本における消費者直販型の遺伝祖先検査に関する倫理的検討

代表研究者 佐藤 桃子（理化学研究所 リサーチアソシエイト）

Ethical Considerations on Direct-to-Consumer Ancestry Testing in Japan

Representative Momoko Sato (Research Associate, RIKEN)



研究概要

日本において消費者直販型（Direct-to-Consumer, DTC）で購入者の遺伝的祖先を割り出す遺伝祖先検査は、欧米に比べ実施規模が小さいとされてきたが、近年は専門サービスの確立等により知名度が高まっている。しかし、「日本人」に特化してルーツを明らかにしようとするサービスが、日本社会にもたらす影響についてはまだ十分検討されていない。本研究の目的は、日本の DTC 遺伝祖先検査が単一民族思想や排他的な考え方につながってしまうことがないよう、どのような提供のあり方が必要か、学際的に明らかにすることにある。

本研究では、日本で DTC 遺伝祖先検査を提供しているウェブサイトと、一般市民の遺伝祖先検査のとらえ方を調査し、日本の DTC 遺伝祖先検査が多様なルーツの認識に与える影響を検討して、DTC 遺伝祖先検査が排他的な考え方につながることはないか、あるとしたらどのようなサービス提供が求められるかを探索する。これにより、現実的に日本に生きているエスニックマイノリティが、排斥や軽視といった危害を被らないことと、日本に住む個人がルーツを知りたいという欲求を満たすことのバランスが取れたサービス提供のあり方を提言することを目指す。